

平成二十四年三月

蟹江町歴史民俗資料館

年報

第三十二冊

目次

一 「沿革誌」より	1
二 事業概要	2
三 資料の収集・保管	3
四 展 示	9
五 調査・研究	13
六 情報提供	14
七 教育普及	15
八 庶務報告	22
九 文化財保護	24

蟹江町歴史民俗資料館特別展示

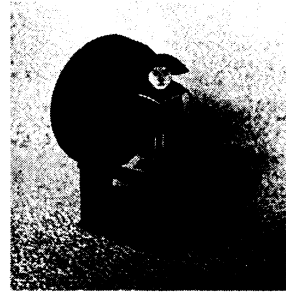
「日本の郷土玩具」



鯉抱き童子 (名古屋市)



龍泉寺笛馬 (名古屋市)



でんでん太鼓 (犬山市)

平成 22 年 10 月 16 日 (土) ~ 11 月 28 日 (日)

午前9時~午後5時 月曜休館

主催 蟹江町教育委員会

問い合わせ先 生涯学習課歴史民俗係(歴史民俗資料館)

電話 0567-95-3812

開催にあたって

日本各地には、さまざまな伝統ある郷土玩具が伝えられています。これらの郷土玩具は、地域の民俗や風土を題材に職人が一つ一つ製作したもので、現在の工業製品の玩具と違い、見ているだけで温もりや親しみを感じさせてくれるものです。中には、年中行事に欠かせないものや縁起物とされているものも少なくなく、子どもの健やかな成長や幸せな暮らしへの願いが込められているものも多くあります。

今回の展示では、郷土玩具収集家の協力を得て日本各地のさまざまな郷土玩具を展示いたしております。ユーモラスで温かみのある中にも、伝統やそこに込められた人々の想いがあることを感じとっていただければ幸いです。

なお、今回の展示にあたってご協力いただいた方々に対しまして、ここに厚く感謝申し上げます。

平成22年10月吉日

蟹江町歴史民俗資料館

1 愛知県の郷土玩具

郷土玩具にはいろいろなものがありますが、寺社で縁起物として授与されたり、縁日に売られるのも多く、愛知県の郷土玩具にもそのようなものがいくつもあります。

甚目寺の「振り太鼓」は、甚目寺観音の境内で節分の時などに売られたもので、振ると中の豆がガラガラと音をたてるので「甚目寺のガラガラ」ともいわれました。古くから親しまれた玩具で、江戸時代末の『尾張名所図会』にも描かれています。笠寺の「福馬」や竜泉寺の「串馬」や「笛馬」も寺の参拝者に縁起物として売られたものです。神社で授与される土鈴にもさまざまな趣向のものがあります。また、祭礼にちなんだ玩具もあります。



『尾張名所図会』より

愛知県の郷土玩具の特徴の一つとして、糸を使ったからくり玩具が多いことがあげられます。「東照宮の牛若と弁慶」、犬山の「でんでん太鼓」などがあり、「東照宮の牛若と弁慶」は、かつて東照宮の祭りの山車に飾られていた人形を再現したもので、仕掛けを動かすと牛若はくるくるまわり、弁慶はなぎなたを上げ下ろす仕組みになっています。

愛知県は、三州瓦の産地であることが影響して、土人形が各地でつくられているのも大きな特徴です。起(一宮)、名古屋、乙川(半田)、西尾、旭(碧南)、大浜(碧南)、棚尾(碧南)、豊橋などの地域で作られてきました。

こうして古くから伝わるさまざまな郷土玩具も、作り手の後継者がいないなどの理由から、現在作られているものは少なくなってきました。

蟹江町歴史民俗資料館特別展示

館蔵品を見て学ぶ蟹江の文化



川合玉笠筆 「水車梅」

平成23年2月8日(火)～3月20日(日)

(月曜休館) AM9:00～PM5:00 入場無料

場所 蟹江町産業文化会館 1階 企画展示室
(蟹江町城一丁目214番地)

主催 蟹江町教育委員会

問い合わせ先 生涯学習課歴史民俗係 (歴史民俗資料館)

0567-95-3812

特別展開催にあたり

蟹江町歴史民俗資料館では、平成6年度から郷土蟹江の文化人に関する資料の購入事業を推進してまいりました。まずは当町出身の探偵小説家小酒井不木、画家林稔亭、宗教家山田玉田を始めとする関連資料の収集を行い、平成8年度以降、「小酒井不木の世界」、「館藏品にみるふるさと蟹江の文化」など郷土文化に関する特別展を定期的に開催し、期間中は郷土文化に関心のある方々にご来場をいただきました。その他、常設展示においては、文化人に関するコーナーを設置し一般公開を行ってまいりました。

その後も関係資料の収集に努めるとともに、小酒井不木遺族小酒井美智子様、江戸川乱歩遺族平井隆太郎様、平井憲太郎様などを始めとする関係各位から資料館の資料収集活動にご理解をいただき貴重な資料の寄贈をいただきまして、館蔵資料は年々充実してまいりました。

特に平成20年度は、不木33回忌の際に建立された江戸川乱歩揮毫の不木碑が八事霊園から当館へ移設されるなど、貴重な文化資料のご寄贈を小酒井家からいただくことができました。

今回の特別展では、小酒井不木、林稔亭を始めとする蟹江町出身の文化人の他、蟹江町に縁のある作家吉川英治や政治家加藤高明、漢詩家服部擔風などの資料も併せて展示を行いました。蟹江の水郷情調豊かな景観を「東海の潮来」と名付けたのは、戦中戦後の一時期に当地を訪れた吉川英治であり、現在蟹江川右岸堤防に「佐屋川の 土手もみちかし 月こよひ」の文学碑が建立されています。加藤高明は母が蟹江町須成出身であり、服部擔風は蟹江町に漢詩と書道文化を普及させるなど蟹江町に縁のある人物でもあります。

また、第11代・13代蟹江町長の故山田平左衛門氏から寄贈されました川合玉堂、荒川豊蔵、鬼頭鍋三郎関係の美術工芸品や旧蟹江町立図書館が開館し、館内に掲げられた川端康成書「佐藤観文庫」扁額なども蟹江町縁の文化資料として展示を行っています。

今回の特別展開催により、「ふるさと蟹江」の一層の文化向上のため、皆様のご関心を高めていただくことを期待しまして、ここにご挨拶申し上げます。

平成23年2月吉日

蟹江町歴史民俗資料館

○ 小酒井不木

医学博士 探偵小説家

明治23年(1890)10月8日生まれ、新蟹江村(現蟹江新田)出身。父は新蟹江村村長小酒井半兵衛。県立一中・京都三高を経て大正3年(1914)東京帝国大学医学部卒業。以後医学についての研究を続け、海外留学を経て英国ロンドンに在った時、咯血、大正9年(1920)東北帝国大学教授も発令だけで赴任にいたらず、大正10年(1921)以後は病勢は一進一退を続けたが、その後大正12年(1923)に名古屋に居を移し、文筆活動に入るにいたった。

ロンドン留学中、コナン・ドイルの作品に接して以後豊富な医学知識と推理によるいくつかの条件設定のもと、探偵小説に卓抜した筆の冴えをみせ、「疑問の黒枠」「紅色ダイヤ」などの作品を発表、多くの大人は勿論、少年雑誌を通して少年達にもその読者層を持った。結核との戦いを体験し、医者とし

て、患者の立場として執筆した『關病術』は、当時の世相を反映し、ベストセラーとなった。

また、江戸川乱歩処女作「二銭銅貨」を絶賛して、乱歩への文筆活動への援助を行うなど、探偵小説家を志す後輩の育成にも貢献したことで知られている。

俳句にも情熱を注ぎ、拈華俳句会(現ねんげ句会の発起人として、会の名付け親(仏教用語で以心伝心)としても有名である。



小酒井不木俳句掛軸

昭和4年(1929)3月27日風邪気味にて発熱就床。同年4月1日急性肺炎を併発、惜しまれつつ逝去した。享年39歳。

平成16年(2004)4月3日、蟹江町図書館敷地内に有志により「小酒井不木生誕地碑」が建立され、平成21年(2009)12月に、遺族により八事霊園にあった乱歩揮毫の不木碑の寄贈があり、蟹江町歴史民俗資料館敷地内に移設された。

歴史民俗資料館1階には、不木に関する机、小説原稿、手紙、俳句などを公開した「小酒井不木資料室」が設置されている。